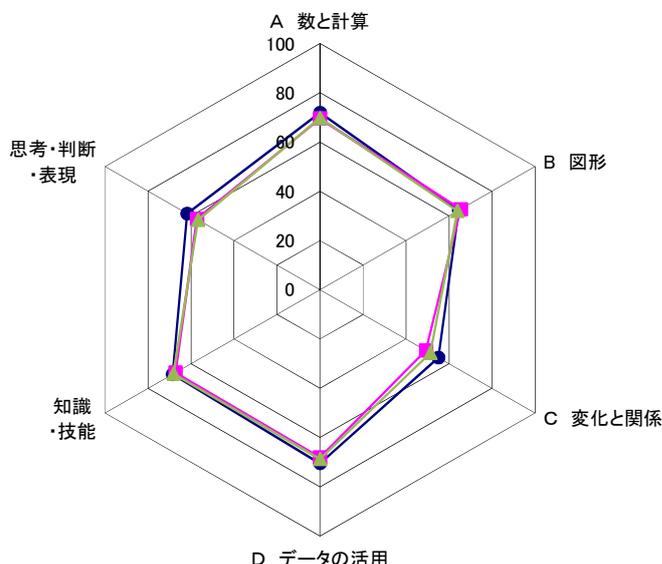
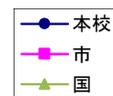


宇都宮市立富士見小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.9	69.5	69.8
	B 図形	64.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	55.1	49.3	51.3
	D データの活用	70.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	68.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	61.9	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○本領域の平均正答率は71.9%で、国の正答率を2.1ポイント上回った。</p> <p>○「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」の平均正答率は82.1%で、国の正答率を6.1ポイント上回った。</p> <p>●「二つの数の最小公倍数を求めることができる」の平均正答率は69.6%で、国の正答率を2.6ポイント下回った。</p> <p>●「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」の平均正答率は、国の正答率を5.4ポイント上回ってはいるが、40.2%であった。</p>	<p>・日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることができるようにしていく。</p> <p>・示された場面において、ある数の倍数ともう一方の倍数の関係に着目し、二つの数の最小公倍数を導き出せるようにする。その際には、大きな数の倍数から考える方が効率がよいことを捉えさせる。</p> <p>・日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて概算できるように理解を深めていく。概算にする方法(切り上げ、切り捨て、四捨五入)のどれが適切なかを判断できるようにしていく。</p>
B 図形	<p>○本領域の平均正答率は64.5%で、国の正答率を0.5ポイント上回った。</p> <p>○「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」の平均正答率は54.5%で、国の正答率を5.7ポイント上回った。</p> <p>●「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」の平均正答率は61.6%で、国の正答率を4.9ポイント下回った。</p>	<p>・図形の意味や性質を基に、図形を構成する要素(辺、角)に着目し、図形の構成の仕方について確認する機会を設定する。</p> <p>・ひし形を構成する要素やそれらの関係(平行、垂直、同等)に着目して、作図の仕方を筋道を立てて考えることができるようにしていく。また、その他の図形についても同様に考える機会を設定することで、理解を深めていく。</p>
C 変化と関係	<p>○本領域の平均正答率は55.1%で、国の正答率を3.8ポイント上回った。</p> <p>○「伴って変わる二つの数量が比例関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」の平均正答率は56.3%で、国の正答率を8.3ポイント上回った。</p> <p>●「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」の平均正答率は15.2%で、国の正答率を6.2ポイント下回った。</p>	<p>・問題場面の数量の関係に着目し、基準量・比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について、図や式などを用いて考えることができるようにしていく。</p> <p>・日常の具体的な場面に対応させながら、数量が変わっても割合は変わらない場合を取り上げ、割合についての理解が深められるようにする。</p>
D データの活用	<p>○本領域の平均正答率は70.5%で、国の正答率を1.8ポイント上回った。</p> <p>○「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」の平均正答率は69.6%で、国の正答率を5.7ポイント上回った。</p> <p>●「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる」の平均正答率は71.4%で、国の正答率を3.9ポイント下回った。</p>	<p>・日常生活の問題を解決するために、目的に応じて必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察する機会を設定する。</p> <p>・表の意味を理解し、表に表したり、表を読んだりすることで、データの特徴を考えたり、見いだしたことを表現したりできるようにしていく。</p>